

平成二十八年度 大学院人文科学府博士後期課程第2期入学試験問題

(東洋史学・外国人留学生入試)

次の各問に答えなさい。(解答は解答紙に記入)

問Ⅰ 日本の東アジア海域史研究における「倭寇的状况」論・「境界人」論の概

要を、中国における嘉靖倭寇研究と比較して述べなさい。

問Ⅱ 次の各語について、簡明に説明しなさい。

- ① 行人司
- ② 鴻臚寺
- ③ 居座
- ④ 書状官
- ⑤ 唐順之
- ⑥ 大内義長
- ⑦ 『武備志』
- ⑧ 『隣交徵書』

問Ⅲ 次の史料を現代日本語に訳しなさい（解答の字体は常用漢字でも可）。

浙江岑港倭徒巢柯梅、總督侍郎胡宗憲屢督兵討之不能克。於是南京御史李瑚追劾宗憲私誘王直啟釁、巡按浙江御史王本固・南京給事中劉堯誨亦劾其老師縱寇、濫叨功賞、請行追奪。……上曰。「宗憲司軍務重寄、宜去與留、其令在廷集議、毋黨護依違」。……

未幾、宗憲上疏自辯曰。「王直為東南大患、節經兵部題奉欽依、先有購求之文、後有許降之意。臣仰承廟算、不惜身家而百計以圖之。茲幸擒獲、言者乃誣臣為私誘、詆臣為專擅。又以今歲繼來之寇、謂由臣擒直啟釁致之。是將嫁無窮之禍於任事者之身。推原其意、豈欲人人皆畏首畏尾、不敢一奮然擔當國事、然後為可耶。昔歲臣任巡按時、徐海・陳東・麻葉之徒已盤據松江、結巢柘林、攻城破邑者四年矣。彼皆王直黨也。果何人招致、何人啟釁乎。矧直猾譎善戰、久雄海上。昔年以孤舟住泊瀝表、總兵俞大猷時為參將、以福船五十艘圍攻數月、竟爾逸去。以此觀之、此曾非可以力勝、非可以常視之也。方直跳浪海洋、中外驚詫。以為猛虎毒蛇、不啻丘富。臣苦心積慮、幸而獲之。乃言者復以么麼視之。夫直誠么麼、與海上事無輕重也。不足為臣功已矣、而又安得為臣大罪耶。臣力竭智殫、怨多毀集。願畢力以除舟山餘孽、退伏斧鉞。唯聖明裁察」。

上復報曰。「卿計獲妖賊、人所皆曉。特以獻瑞故、人不敢直指軍事以害卿耳。卿宜竭誠展布、以平餘氛。不允辭」。

〔『世宗實錄』卷四百六十一、嘉靖三十七年七月丙辰〕